

こころ



パーソナリティ (personality)

「〇〇さんは、几帳面な性格だね」とか「〇〇さんは、いつも元気」などと、人を評することがあります。これは、その人の特徴的な性格・行動を発言者のとらえ方で表したものです。これらの言い方は、当然のことながら、その人の全体像を正確に表しているわけではなく、目立った特徴を言っているに過ぎません。また、ある人から「素直な」と評されている人が、別の場面、別の人と接するときには「素直」でないこともしばしばでしょう。

今回は、パーソナリティ≡性格の枠組みについて、心理学の面からどのように捉えられているかについて紹介します。

以前は、第二次世界大戦前の「生得説」（遺伝により決まる）と大戦後に優勢となる「経験説」（過ごす環境で決まる）という議論がなされました。現在では、そのどちらも性格に影響を与えるという「相互作用説」が隆盛で、双子によるパーソナリティ研究などが有名です。

では、そのパーソナリティを分類する研究はどうでしょうか。

大別して「類型論」と「特性論」があります。

「類型論」とは、タイプ分けのことです。「星座占い」や「血液型による分類」などのイメージだと分かりやすいでしょう。

これを書いている日の、ある星座占いでは天秤座が最も良い運勢でした。「天秤座生まれは社交的な人が多い」などと言われることもありますね。

ただ、こういう性格分類に科学的根拠は薄いのかもかもしれません。「なるほどね、確かに私の周りの天秤座の人は、社交的だ」などと感じても、エビデンス（根拠）は乏しい。

これに対して、「特性論」とは、一人の人の中には、たくさんの特性があり、強く表れる特性も、弱い特性もある。それぞれの特性の多寡を測定して考えようとするものです。

現代の性格心理学は、これが主流であると言えます。

アメリカの心理学者ゴードン・オルポート（Gordon Willard Allport）が、辞書の中の膨大な語を抜き出し、そこから性格をいくつかに分類する手法の研究を行いました。その後の研究者がAIなどを駆使して、その研究を発展し、人間の性格を次の5種類に集約しました。

「外向性」「協調性」「良心性」「情緒安定性」「知性」

さらに英語圏以外の文化圏、言語圏でも複数の研究者が同様の研究を進め、多くの民族で、やはり同じように分類できることが分かりました。

名付けて「ビッグ・ファイブ理論」です。右のように表すと理解しやすいと思います。この図の場合、「外向性」が一番強い特徴と言えます。

皆さんは、この5つのどの部分が強い、または弱いですか。

